

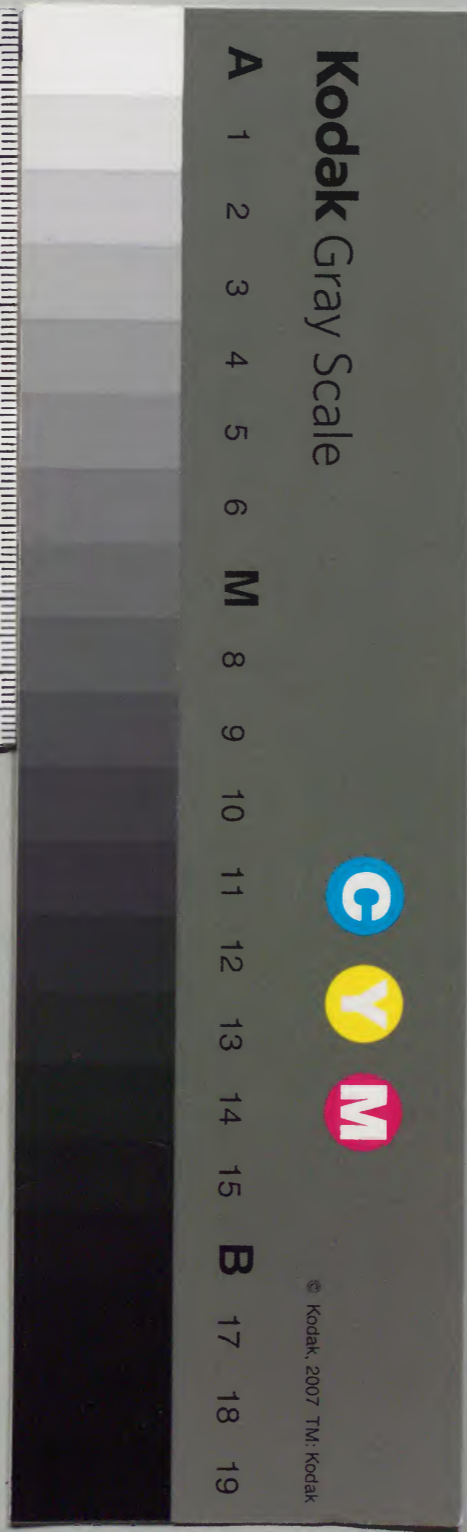
小笠原小記録

七八九

			一五五三六	和書門
		二一六	函號	
五	七	六	架冊	
冊			類	

庫	文	開	内	
五三函	五五三六		和書	
二一	五	六	架冊	
架		號	類	

内閣文庫	
番號	和 15536
冊數	5 (3)
函號	153 . 372



小笠原流小記録卷之七

同卷之八
貝桶之記
和久の記
荷唐櫃の記

目錄

折紙注文之記

音物贈受之記

樽品之記

銚子富尾古今之記

同卷之九

目錄

花廼家文庫

淺草六庫

書札當用之記

制札之記

起請文元始之記

神文作法之記

歌法傳記

目錄

中記 係七

月係

貝楠之記

日和久の記

荷屋桂の記

貝桶之記

小学明倫 明君臣之義篇

烈女不更二夫註云貞烈之女始終一志

貞女兩夫不見比云

俗レ變れの以列の先か中一用之

一青貝桶寸法の事

一接底一尺一寸八分

蓋一尺一寸八分但身寸九寸五分

蓋寸二寸 身寸一寸七分 足寸二寸

二青貝桶寸法の事

一接底一尺六分

蓋一尺一寸二分 身寸九寸五分 足寸二寸

イ 尺八分 寸九分 身寸九寸五分 足寸二寸

一貝桶蓋一尺一寸五分 身寸九寸五分 足寸二寸

女貝桶イ 女貝桶寸法の事 男貝桶寸法の事

男貝桶寸法の事

一接底一尺一寸二分 身寸九寸五分 足寸二寸

蓋一尺一寸二分 身寸九寸五分 足寸二寸

蓋寸二寸 身寸一寸七分 足寸二寸

一貝桶一尺一寸五分 身寸九寸五分 足寸二寸

女貝桶寸法の事 男貝桶寸法の事

一接底一尺一寸二分 身寸九寸五分 足寸二寸

貝桶和久之記

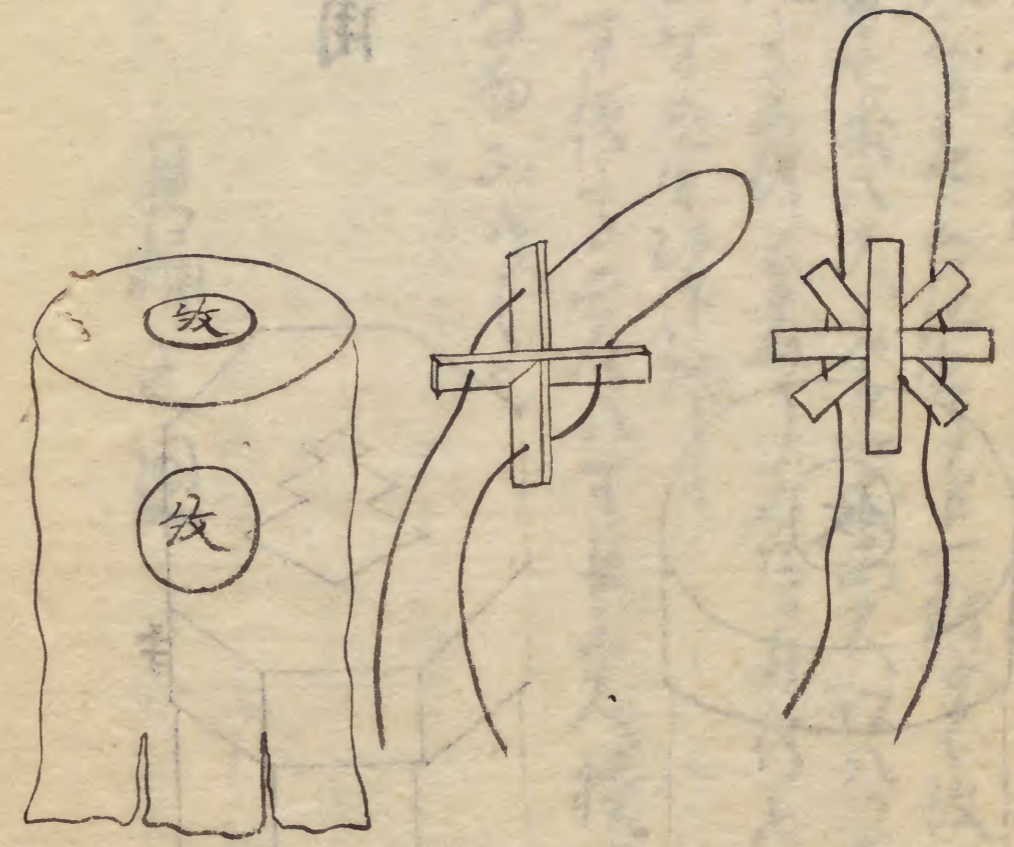
一古来此國の婚れしも貝桶と云ふ事
 内方肉と云ふ事あり

古来此國と隔る婚れも此合を云ふ事
 十リもの男の年留方の方より後心と云
 と此心より後心にして夫より男の方の者
 相く此年方連と後心年の方人相くとの

一和久も後ありて此方と極さありた
 して内一貝桶と入テと云ふ事あり

絡籠 和久と和久の月を妻

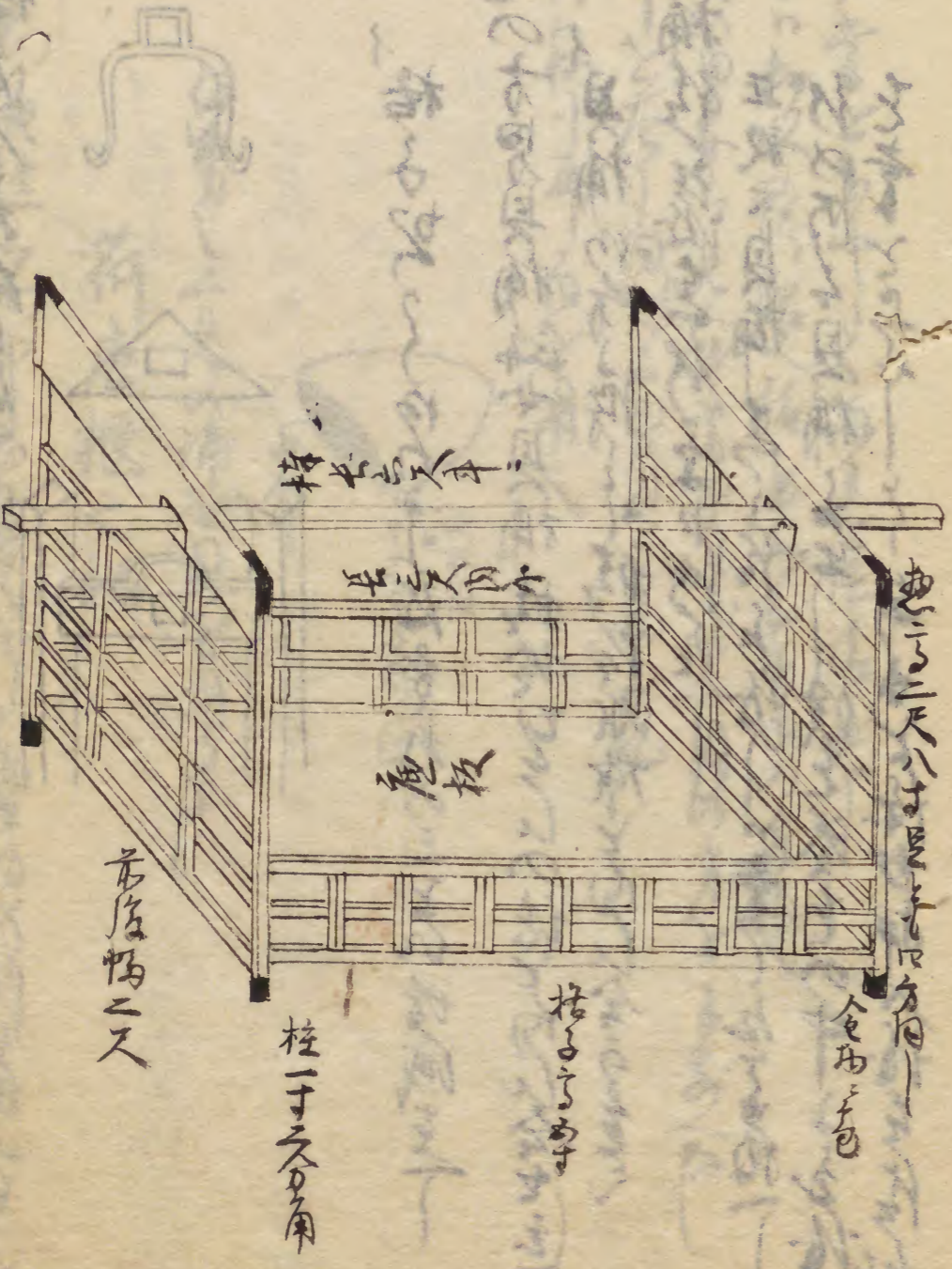
一序云 古来此國大名の奥方は此を床に
 世に了の婚れしもせし和久も後心
 たる事あり



無之
和久思陰十と誤合あり
具指方より長短増減あり

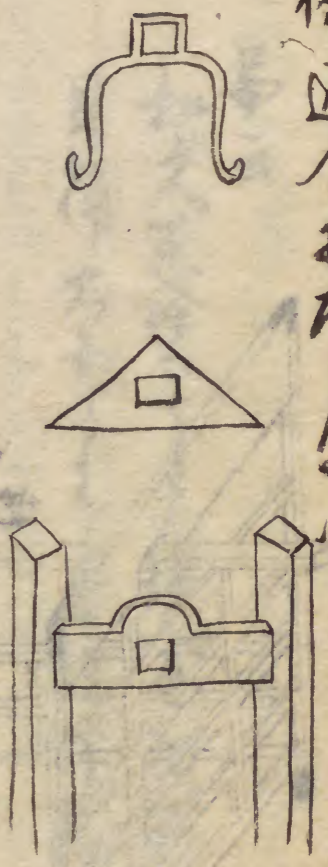
和久思陰十と誤合あり
具指方より長短増減あり

和久思陰十と誤合あり
具指方より長短増減あり
和久思陰十と誤合あり
具指方より長短増減あり



和久思陰十と誤合あり
具指方より長短増減あり
和久思陰十と誤合あり
具指方より長短増減あり

一 棒通金おたし



格子おろりゆれすはきおのこまの増減を

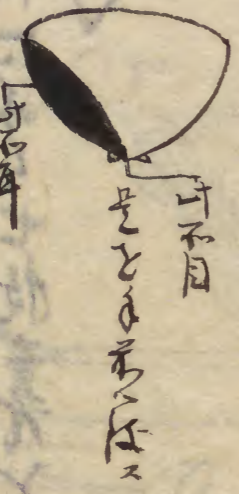
一 先の方男具桶端女具桶結しむしこの徳と向し合せ

男桶の方の尻より結しぬ所と向し合のき

一 具桶法は落しきりまはゆき

正設の具桶をくはれぬし口業くはるぬし
ゆの所を具桶とせしははを養をの中を結
ときとせしははとせしははを結

方きとちやとあきと結しぬし
まの初めの結しぬしははの
具の男から具の女からゆくの目の方と
耳とたし向しははの目の方と
具の男から具の女から



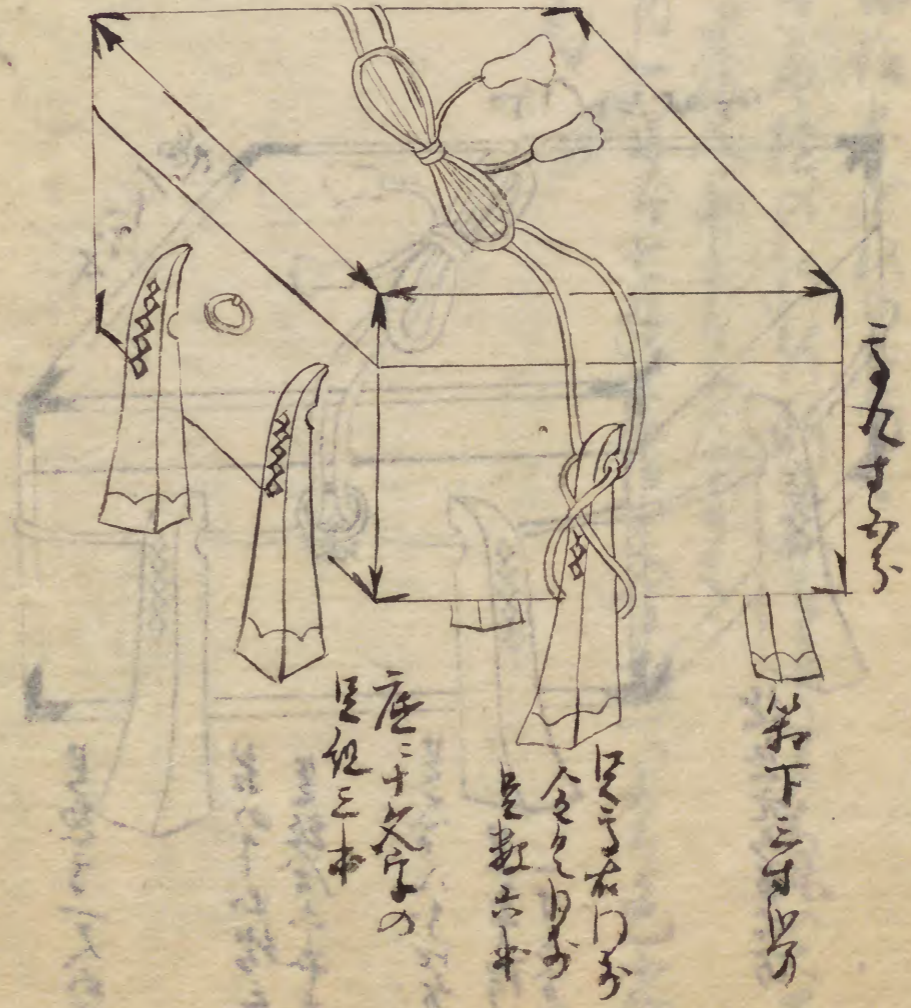
何れかしの具の桶を具とせし

荷唐櫃之記

一 元高唐櫃の中の区々中へゆれり列し

一几帳面とて今を飾ゆへ今をちる但一房を

高の長
一丈八寸
四方



一右をとり列々持する所は此まとうり故不織故
故すくと一針糸久くまねるなりむ信を信の只
こゝろ

一掛け細竹葛糸のちりちりたる其のりとき
おろし

一其は糸とてその糸の糸とて其の糸とて其の糸とて
其の糸とて其の糸とて其の糸とて其の糸とて

一其の糸とて其の糸とて其の糸とて其の糸とて
其の糸とて其の糸とて其の糸とて其の糸とて
其の糸とて其の糸とて其の糸とて其の糸とて
其の糸とて其の糸とて其の糸とて其の糸とて

一 有様出来りしもの事は象の制作の手と
若しと云ふものなり
一 有様もそのついで今故金と云ふ事未故事
を丁一初ね手備の房より池子と具柄り
ことごと
有様はからりと云ふ帳面をこ面のみと
具と姓と云ふ

カ記録八

目録

折紙浪文之記

音物贈受之記

栲呂之記

洮子富尾古字之記

所々持てて其利を備へて此物々をせしむる
に教へし所々を以て

一 郡を置るに其の荒れを治めたり或は分りて或は其の
是落失れと云ふに其の治めたり其の治めたり其の治めたり
まことと云ふに其の治めたり其の治めたり其の治めたり
或と云ふに其の治めたり其の治めたり其の治めたり

一 此の通物と云ふに其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり

一 其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり
其の治めたり其の治めたり其の治めたり其の治めたり

新加坡の事

一年始末帝の中元八朔成春を成りし事
孔の傳き一平口之を若坊を格子の事
右斗事の傳し

一 既降恒きと人の格式と考ると為の事
海軍の事のみを事わたりて
用いた事しつゝ又ゆ候とありあり
切併し玉向の格よりなる事
第1句の傳し

イ 老人と云ふ事
有る可い事
七事と云ふ事

一 遊物に恒き流候事
人子遊る事
之を流し又人の事
ありし事
責候事

一 却田信言曰人の信子
軍艦の事

初物りありきと云々
市を賣脱し居るもの

一 喜おと悦ぶは江原の員と云々の有りて志保くふははらう
仰一 志保の志ふまりのこと此物に志保入と云々
志保の志ふまりのこと此物に志保入と云々

新井やしての志を討つたがど包巻きと云々
とて志を討つたがど包巻きと云々

一 或人同日に志を討つたがど包巻きと云々
志を討つたがど包巻きと云々

一 君又作の息情のむくむくし
志を討つたがど包巻きと云々

作の先学之我信之
我人の先学之我信之

一 都を渡はさるめねに
志を討つたがど包巻きと云々

樽品之記

一 樽名品之書
柳樽 手樽 炭樽 角樽 太鼓樽
斗樽 之類ありて
座をあるは作の樽と云々
の作の又と云々

柳栲と用いしおの栲

一 柳栲と云々細七手栲と云々し栲の葉のあつたつと云々
三畧云 有饋草膠者云々

草竹の竹の節に膠り夜泊と云々の竹の節に入らば竹の栲も
竹と云々細栲の栲と云々し栲の葉と云々竹の節に
からまき一りし云々と栲の葉に

イ 或人云上右の栲と栲のあつたつと云々の栲はし
栲し栲の葉を栲栲と云々し栲の葉と云々の栲はし
と云々一説し

一 角栲と云々大角栲と云々し角の栲と云々の栲はし
角栲と云々大角栲と云々し角の栲と云々の栲はし
角栲と云々大角栲と云々し角の栲と云々の栲はし

考の栲と云々陰陽と云々し男栲の栲一對の栲と云々
男栲一對の栲一對の栲と云々し男栲の栲一對の栲と云々
男栲一對の栲一對の栲と云々し男栲の栲一對の栲と云々

考の娘と云々徳ありと云々の娘と云々の娘と云々の娘と云々
娘の娘と云々徳ありと云々の娘と云々の娘と云々の娘と云々

一 角栲と云々大角栲と云々し角の栲と云々の栲はし
角栲と云々大角栲と云々し角の栲と云々の栲はし
角栲と云々大角栲と云々し角の栲と云々の栲はし

一 大角栲と云々大角栲と云々し大角の栲と云々の栲はし
大角栲と云々大角栲と云々し大角の栲と云々の栲はし
大角栲と云々大角栲と云々し大角の栲と云々の栲はし

栲栲のふと栲栲と云々し栲栲と云々の栲栲と云々

一 蕨柄と云ふ大方木敷柄のこもくすしとくつしつて
 上と修り柄有るもくは花紋はし用之は受取しを
 用之こ白柄と云ふを蕨柄と云ふ一高松陽のこも
 くまきりこもを判書し

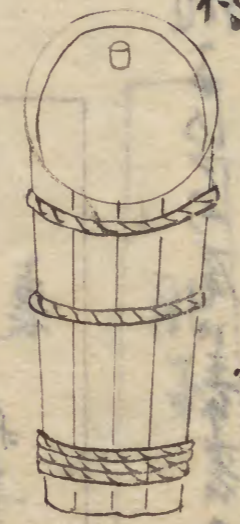
一 柄の諸菊柄向ふ所地花向ふと一柄の名と書こ
 他柄名の姓名と云ふは何とせし書竹の柄座のこ
 書ししこ増えしは修りし大原のこも内書有る
 書しし向柄たがうて五之柄と書ししはかしのあし
 手柄のしめはのうらぬりしを之と書し

一 柄一高と書ししは受取しを
 大學子曰 富潤屋、徳潤以身
 是を屋ハ家ハ同家ハ内ハ悦ハを
 ちとくす書し

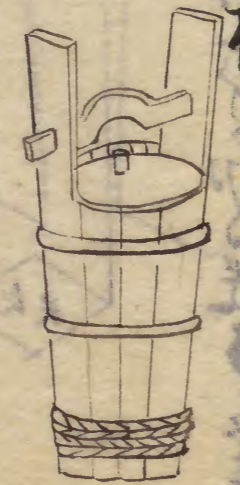
一 書ししきし書ししを
 一 書ししを

柄図

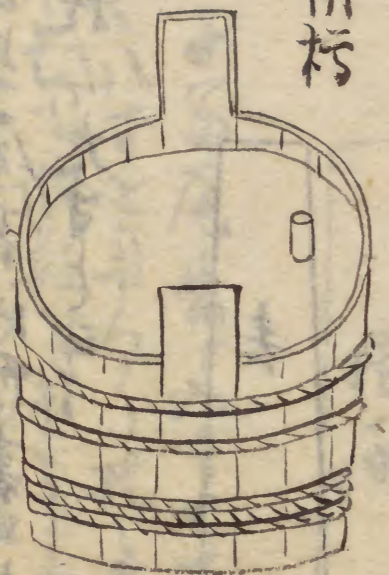
柳柄



手柄



角柄



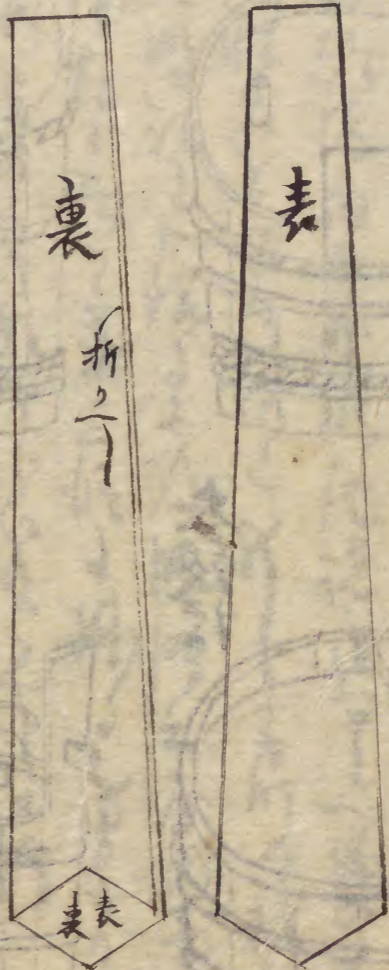
太鼓柄



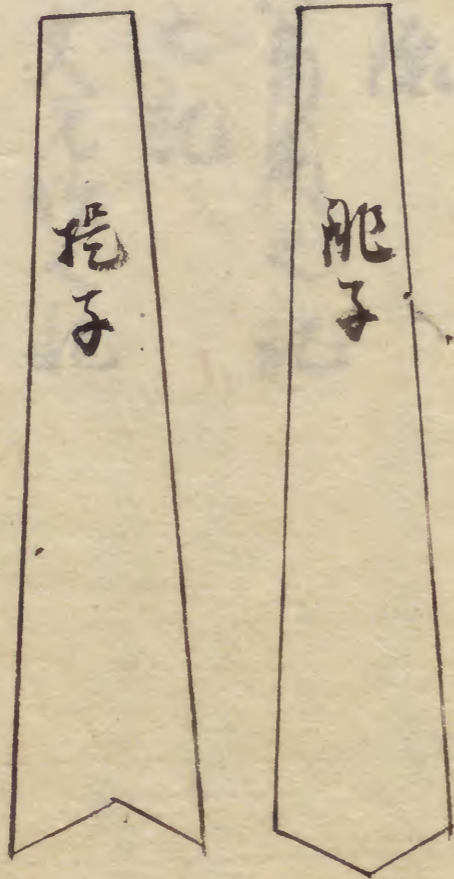
蕨柄と云ふ世に高し

肥子屬尾古今之記

一古法の鳥尾表尻取裏の矢筈寸七尺肥子の寸
七寸控を九寸とし



一原法の肥子の鳥尾の素裏を寸七尺の肥子の寸
表を寸七尺の肥子の寸とし



一肥子の鳥尾の寸七尺の肥子の寸
表を寸七尺の肥子の寸とし
控子を寸七尺の肥子の寸とし
正取の肥子の鳥尾寸七尺の古法の寸七尺の肥子の寸
寸七尺の肥子の寸とし

一 ほうの授と殿より致しをりし鹿苑院義満より
公方号ありて公方任と号と名板と書と致し
白し書しと一より板と名と書し殿とて居
下と書しとるまのちりきりなれど殿とらる板と
おりに用ひせざるはしむるも

義満は足利尊氏の嫡孫

一 後や松院より公方号とてとつけりし將軍
といふ方任し云々
一 中々の又よお名の名と書しし里の名と書し
致しとるあま殿とてと書しとて
一 一

一 致方とてその名字と書しし子の方より父の
方より書しとて古板に由来行ひぬ世に又は名字
と書しとて古板に書ししとて
一 先下と書しとる公方の名と書しとて名と書し
とて書しとる公方の名と書しとて名と書し
一 足の内子(連名)とて書しとる公方の名と書し
とて

大板
大板大夫板

名字

正裁云書札の流布秘原にてもその上を初め
後よりとてその半に知る用をされ高所用家
片の女流の記也

古作封上夕中夕下メ

高所 上ノ中メ下ノ

朝状切封書 又 月ノ下ノ水ノ

高所書状折紙 切紙十寸法因か

一冊三寸二分

一巻紙出上流一

思惟澤

一冊三寸二分

何れに於

一冊の上中下と一七種ありと定

寸法不謂三方
之志の曲と云は
之候

一冊三寸二分
下葉寸と定

右法腰丈らる所切封のしるし状のしるし
印し付巻て封ししるし入る状のしるし
本文の二枚を紙一枚を包し二枚を包紙し
又本文を一枚紙一枚を包一枚を包紙し
厚多しする所の切紙を紙同を包し
封状中改より紙状より宛名と文を包し
名を包ると書紙を包し封状より宛名
を書し直れりる所紙は紙を包し

上法執達中 兼人 下 今 中
可なる所 封 意 従 事 上 下 中

割札之記

一 元割札を札の果あり割札をさし高札の早
故に割札を成る事は軍陣の場合に用ひ依度
書りしる札を前入従来の道市場をさし札
事

割札の事法護存し習ふこと

一 割札の所を林割と書しる札の所を定しる
事

一 割札の板より板をさし札をさし板より
横板板月板月札紙の切紙札串の角のり

河上信家の手記

一板の半一桎目板とあり

これと云ふは、その方と云ふは、その用と云ふは、
御門札の表に角と云ふの事

一制札の板は寸法あり、ひびき、またとみ、
これ々々、名数も、案の、物、傷、板、板、寸法、
一札の起り、漢の高祖、知路と云、
擬法珠、自筆、軍勢の忠告、とまね、
是より、制札の、
高祖、
一制札、

一十馬札を、
神宗、
起請文、

一日本記 二十五卷目 三十七代

孝徳天皇即位之時、
瀝心血ヲ請文記給フ云、
神宗、

一和記と云、

持統天皇との記法 甲子年

又武天皇の御子一品会人親との法、甲子年
元正天皇の御孫元年甲子未也

一 隆慶四年の狩軍、執権卿執権成房、平春時、
身承武同の記法、又と承、うり、何討、又、あ、く、ち
是を、用、也、と、ま、り

神文作法之記

一 神文の所を、あり、お、終、止、と、る、と、一、種、と、と、み、を、決、
ち、ら、ぬ、い、ら、ぬ、と、い、い、信、美、と、と、し、て、一、考、一、
十、二、三、四、五、六、七、八、九、十、と、い、い、あ、り、水、一、く、り、
ま、よ、と、い、麻、下、と、と、と、一、平、麻、一、い、何、一、い、い、

そ、後、又、と、指、刺、の、人、射、と、い、い、神、書、と、教、と、い、い、
勿、得、候、と、い、い、盟、誓、と、い、い、と、い、

一 神道、唯一、ある、と、い、い、と、指、と、い、い、あ、り、と、

種、と、い、い、
あ、ま、蒜、薺、葱、胡、葱、ち、ね、ち、う、い、
あ、の、お、つ、と、い、い、と、い、い、と、い、い、
二、成、日、中、と、い、い、と、い、い、

一 神文と、い、い、と、い、い、と、い、い、と、い、い、と、い、い、
お、と、と、い、い、と、い、い、又、信、候、の、秘、書、の、あ、り、と、い、い、
と、い、い、と、い、い、と、い、い、と、い、い、と、い、い、と、い、い、
ま、を、神、文、と、い、い、と、い、い、と、い、い、と、い、い、と、い、い、

一 臣実所進下君もあられに在り人実ゆれと
教人の真を以て教ふ也

一 神文子我実と改む所別神文ありて是を
改む所なきを成の記し書はれ我より一と云ふ

一 記法文盟誓神文より書し

一 今此書玉ふより改む所なきを改む所なき
を改む所なきを改む所なきを改む所なきを改む所なき

一 改む所なきを改む所なき

一 改む所なきを改む所なき

一 改む所なきを改む所なき

血判書文あり一紙外罰文を記す七枚記法

罰文半紙七所七枚の事

一 本書罰文あり白紙とすし本書ありては
是の事し半紙とすし本書ありては

一 血判は紙ありて事

一 記法書之事

一 本書中書し事之事一紙ありて白紙罰文ありて
事あり

一 本書中書し事之事一紙ありて白紙罰文ありて
事あり
一 本書中書し事之事一紙ありて白紙罰文ありて
事あり
一 本書中書し事之事一紙ありて白紙罰文ありて
事あり

一年之末舟と書入る事古所

一色紙之紀

一色紙より書入る事七字より三字まで一色紙

考云

木立 立石

藤花 海老汁

車尾汁 形

分水石 干書

ハヤシの古良の地
ハヤシ梅の九字に
ゆりひぬるうね

二色七字の所
大正七字の所
又二色七字の所
又二色七字の所
又二色七字の所
又二色七字の所
又二色七字の所
又二色七字の所
又二色七字の所
又二色七字の所

一色紙の書入る事七字より三字まで一色紙

一色紙の書入る事七字より三字まで一色紙

二十

奥山よりちぬ
こしけなく麻の声
きくゆも杖をう
るまき

二十

花のつらさうら
かけりなうら
うらなうら
しまん

一名の神書ふす書所々ぬれま一又色紙をさす
かたてこするし

今とて人の

ぬりきり

花より

あつと

一短冊よりまたのま短冊ありまのむかへ

まのむかへをさす一まもあつと

一短冊とあつと一書とあつと一短冊とあつと

一短冊とあつと一書とあつと一短冊とあつと

短冊とあ

短冊色紙をさす色紙に細きとく

とくは方々をさす色紙と名なり古や色紙

まのむかへ短冊とあつと

短冊とあつと一書とあつと一短冊とあつと

短冊とあつと一書とあつと一短冊とあつと

一短冊よりまたのま短冊ありまのむかへ

のむかへをさす

まのむかへをさす
けし短冊の片をさす

二月と記す
の字のめれ
キも記す時
を以て

まを特
あめを
あめを
あめを

一 是を種丹のあめをさきひらふにあらはせし

あしひ
きくに
あしひ
あしひ

一 天子の御制とわが書にまはすはたけの文字と申
あしひ

はくさひの
あしひ

一 是のまはすのあしひとわが書にまはすはたけの

はくさひの
あしひ

一 是のまはすのあしひとわが書にまはすはたけの
あしひ

一短又寸法長一尺一寸二分又五分も一寸二分をせ
のちの寸法なり

一御製衣とす方寸法短尺長一尺一寸二分なり
一寸九分すくま

一襦袢の所短尺長一尺一寸二分幅二寸
一短尺長指針とす一尺一寸二分幅一尺一寸二分の
寸法すくま

一色糸寸法幅は五分五分五分幅も五分五分
一月巾色紙幅五分五分五分幅も五分五分

一短尺長指針とす一尺一寸二分幅一尺一寸二分の
寸法すくま

一短尺長指針とす一尺一寸二分幅一尺一寸二分の
寸法すくま

一短尺長指針とす一尺一寸二分幅一尺一寸二分の
寸法すくま

一短尺長指針とす一尺一寸二分幅一尺一寸二分の
寸法すくま

一短尺長指針とす一尺一寸二分幅一尺一寸二分の
寸法すくま

一 上下書るるついでなる紙より一紙を裁き
 一 短冊のルビを二つに割りて紙に貼る事

無数の事あり

〇七分	〇七分
-----	-----

一字紙并三紙字紙

〇七分	〇七分
-----	-----

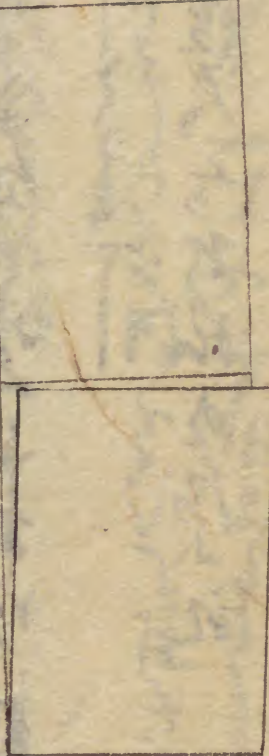
月名を業あり

〇七分	〇七分
-----	-----

一 短冊に打のすねありしを定家卿の古男の書きた
 一 色紙短冊を二つに割りて紙に貼る事
 一 色紙を二つに割りて紙に貼る事

正親公短冊に打のすねありし記

三ノ折之月十一日少部連ノ折ノ



右乃初ノ子粗記云者也

稻葉源大夫則通
福也又之書良温
中関源云係正親

